

小・中合同

令和6年度

教育研究員報告書

音 楽

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究仮説	1
III	研究構想図	2
IV	研究内容	3
	1 調査研究	3
	2 本研究で講じる具体的な手だて	4
	3 実践事例	5
	〈実践事例1：中学校第1学年〉	5
	題材名「曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解して、 歌唱表現を工夫しよう」	
	〈実践事例2：小学校第5学年〉	8
	題材名「曲の特徴をとらえて表現を工夫しよう」	
	〈実践事例3：小学校第2学年〉	11
	題材名「だ楽きの音色やリズムを楽しもう」	
V	研究の成果と課題	15
	1 研究の成果	15
	2 研究の課題	16

研究主題

音楽的な見方・考え方を働かせ、 音楽のよさを実感して表現する児童・生徒の育成 ～音や音楽及び言葉によるコミュニケーションの充実を通して～

I 研究主題設定の理由

小学校及び中学校学習指導要領解説音楽編では、学習指導要領の改訂の趣旨として、「音楽に対する感性を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見いだしたりすることができるよう、内容の改善を図ること」等が示されている。また、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中央教育審議会 平成 28 年 12 月 21 日）において、言語活動が「表現及び鑑賞を深めていく際に重要な活動である」と示されたことを踏まえ、言語活動の更なる充実については、「音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるようにする」と示されている。

一方、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（中央教育審議会 令和 3 年 1 月 26 日）では、「令和の日本型教育」の在り方として、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要であることが示されている。

本研究では、このような音楽科の特質に応じた言語活動の充実や「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向け、児童・生徒が音楽に対する自分の思いや考えを伝え合いながら、他者と協働することで、学びを深めたり表現する力を高めたりすることが必要であると考えた。それに加えて、基礎的・基本的な知識及び技能の習得や、既習事項等を新たな学びに生かすことも必要であると考え、目指す児童・生徒像を「既習事項や生活経験等を生かし、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えながら、思いや意図をもち、他者と協働することで、学びを広げ深める児童・生徒」とし、研究主題を「音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽のよさを実感して表現する児童・生徒の育成～音や音楽及び言葉によるコミュニケーションの充実を通して～」と設定した。

II 研究仮説

次の手だてを講じることにより、音楽的な見方・考え方を働かせた音や音楽及び言葉によるコミュニケーションの充実が図られ、音楽のよさを実感して表現する児童・生徒を育成できるであろう。

【個別最適な学びの充実に向けた指導の工夫】

- 児童・生徒一人一人の実態に応じた柔軟な学習課題や学習活動の設定
- 児童・生徒が既習事項を生かして学習するための指導の工夫

【協働的な学びの充実に向けた指導の工夫】

- 児童・生徒が、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるための指導の工夫
- 効果的なグループ活動のためのグループ編成等の工夫
- 児童・生徒の意見を引き出し、全体に広げる指導の工夫

Ⅲ 研究構想図

共通研究テーマ

「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」

<p>【小（中）学校学習指導要領解説 音楽編】</p> <ul style="list-style-type: none">感性を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出した音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見いだしたりすることができるよう、内容の改善を図る言語活動の充実では、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるようにすること	<p>【「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）】 （中央教育審議会 令和3年1月26日）</p> <ul style="list-style-type: none">一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。	<p>【東京都教育施策大綱】（東京都教育委員会 令和3年3月）</p> <ul style="list-style-type: none">誰一人取り残さず、すべての子どもが将来への希望を持って、自ら伸び、育つ教育自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越え、人生を切り拓いていくことができる他者への共感や思いやりを持つとともに、自己を確立し、様々な人々が共に生きる社会の実現に寄与する
--	--	--

<p>児童・生徒の実態</p> <ul style="list-style-type: none">音楽の学習への意欲が高い。音楽活動において、自分の思いや意図をもつことができていると考える児童・生徒が多い。音楽に対する自分の考えを、根拠をもって音や音楽及び言葉で表現することに課題がある。協働的な学習から、互いに学習を深めたり表現を高めたりすることが不十分である。既習事項や生活経験等を新たな学びに生かす意識が十分ではない。	<p>教師の課題意識</p> <ul style="list-style-type: none">児童・生徒一人一人の実態に応じた指導を十分に工夫する必要がある。知覚・感受を根拠として、児童・生徒が思いや意図を音や音楽及び言葉などで伝え合う活動を充実させる必要がある。協働的な学習により、音楽的な見方・考え方を働かせた学習を積み重ねる指導の工夫が必要である。既習事項や生活経験等を新たな学びに生かす学習過程を構想する必要がある。
---	---

目指す児童・生徒像
既習事項や生活経験等を生かし、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えながら、思いや意図をもち、他者と協働することで、学びを広げ深める児童・生徒

研究主題
音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽のよさを実感して表現する児童・生徒の育成
～音や音楽及び言葉によるコミュニケーションの充実を通して～

研究の仮説
次の手だてを講ずることにより、音楽的な見方・考え方を働かせた音や音楽及び言葉によるコミュニケーションの充実が図られ、音楽のよさを実感して表現する児童・生徒を育成できるであろう。

【個別最適な学びの充実に向けた指導の工夫】

- 児童・生徒一人一人の実態に応じた柔軟な学習課題や学習活動の設定
- 児童・生徒が既習事項を生かして学習するための指導の工夫

【協働的な学びの充実に向けた指導の工夫】

- 児童・生徒が、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるための指導の工夫
- 効果的なグループ活動を行うためのグループ編成等の工夫
- 児童・生徒の意見を引き出し、全体に広げる指導の工夫

IV 研究内容

1 調査研究

教育研究員所属校の児童・生徒にアンケート調査を実施し、分析・考察した。

(1) 調査の目的

次の3点について、本研究の主題を実現するための効果的な指導の工夫について検討する。

- ① 児童・生徒の音楽科の学習における意欲や理解の状況等について
- ② 音や音楽を知覚・感受する際に、その音や音楽の特徴等を、音や音楽及び言葉、体を動かすことなどにより表現したりコミュニケーションを図ったりすることについて
- ③ 音楽科の学習における既習事項や生活経験等の活用について

(2) 調査対象

教育研究員所属校で教育研究員が音楽の授業を担当している児童・生徒 2,121人

(3) 調査結果の考察

調査結果(図1)のとおり、設問1「音楽に対する思いや意図をもつことができている」に対する肯定的な回答の割合は83.8%であり、設問2「自分の思いや意図を友達に伝えることができる」では73.6%であった。また、設問3「根拠をもって伝えている」に対する肯定的な回答をした割合は67.9%であり、思いや意図をもつことについて尋ねた設問から、それを友達に伝えられているか尋ねた設問、根拠をもって伝えているか尋ねた設問へと、設問が具体的になるほど肯定的な回答が漸減していることが確認できた。

このような調査結果を踏まえ、本研究で目指す児童・生徒像を実現するためには、音楽的な見方・考え方を働かせながら、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションの充実を図り、音楽科の特質に応じた言語活動を活発に行い、多様な考えなどに理解を深めることが必要であると考えた。また、児童・生徒が、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で音楽を捉え、それらを根拠に自己の思いや考えをもち、言葉などで表すことができるよう、基礎的・基本的な知識及び技能の習得や、既習事項等を新たな学習に生かせる指導を工夫することが大切であると考えた。これらのことは、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることにおいても重要であると捉え、指導の手だてを検討した。

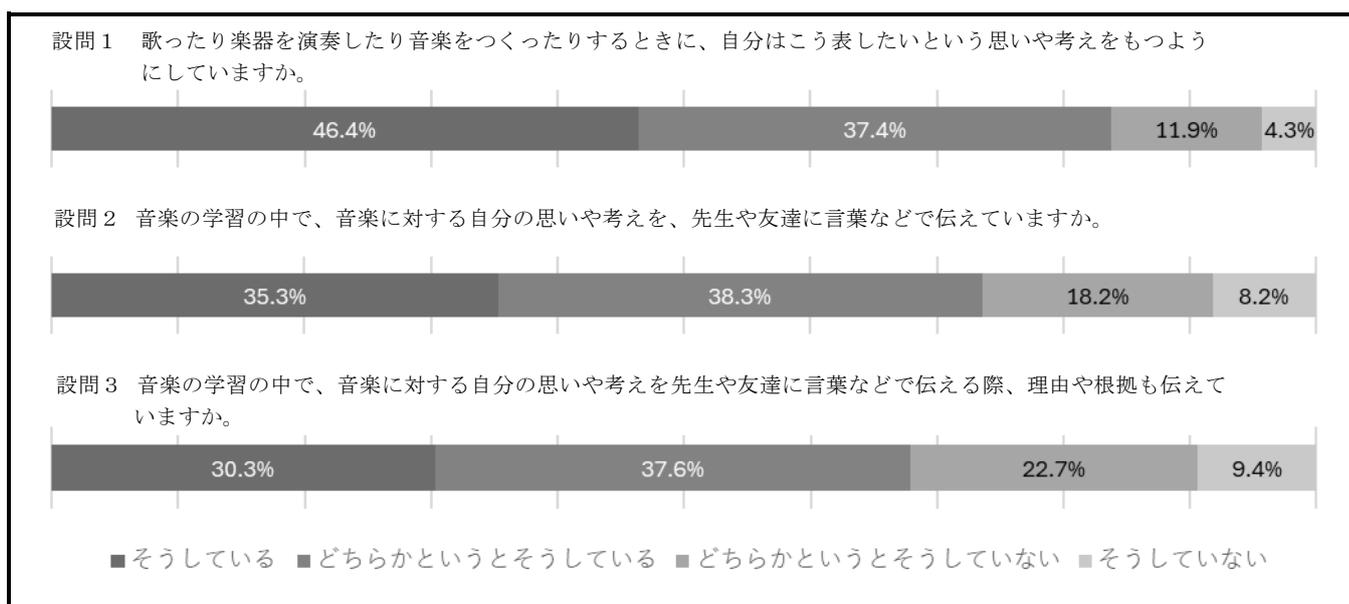


図1

2 本研究で講じる具体的な手だて

本研究では、目指す児童・生徒像を具現化するための手だてを、図2のように整理した。これらの手だてを講じる中で、学習者用端末を効果的に活用したり、教師による児童・生徒への働き掛けを工夫したりすることで、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションの充実を図った。

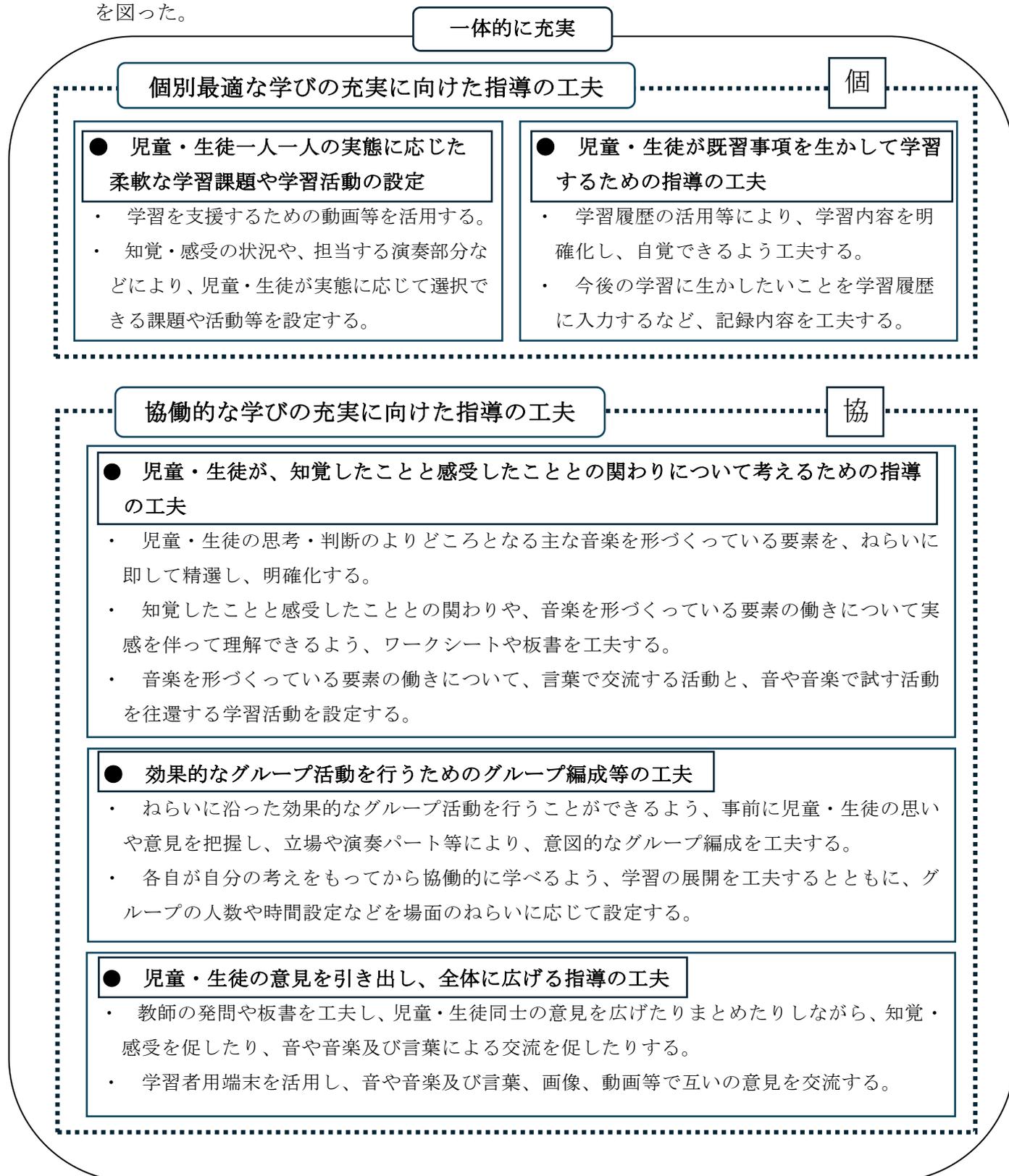


図2

3 実践事例

〈実践事例 1 : 中学校第 1 学年〉

題材名

曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解して、歌唱表現を工夫しよう (中学校第 1 学年)「A 表現・歌唱」

内容のまとめ

〔第 1 学年〕

A 表現(1)歌唱 及び〔共通事項〕(1)

1 題材の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。
- (2) 旋律、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。
- (3) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組み、混声三部合唱に親しむ。

2 指導事項との関連

A 表現(1)歌唱 ア、イ(ア)、ウ(イ) 〔共通事項〕(1)ア、イ

(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素:「旋律」、「テクスチュア」、「強弱」)

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解している。 技 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表している。	思 旋律、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	態 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

4 本題材における具体的な指導の工夫

- (1) 個別最適な学びの充実に向けた指導の工夫
 - 児童・生徒一人一人の実態に応じた柔軟な学習課題や学習活動の設定
 - ・ 各自が一番工夫したい部分を選んで表現することで、根拠をもって思いや意図をもてるよう促す。
 - 児童・生徒が既習事項を生かして学習するための指導の工夫
 - ・ 学習者用端末に記録した録音を含む学習履歴を活用し、自分やグループの表現の変容を比較して客観的に振り返る。
 - ・ 音楽を形づくっている要素の働きについて、言葉で交流する活動と、音や音楽で試す活動を往還する学習活動を設定する。
- (2) 協働的な学びの充実に向けた指導の工夫
 - 児童・生徒が、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるための指導の工夫
 - ・ 学習者用端末内の学習カードに毎時の学習内容を入力・加筆して蓄積したり、歌詞や生徒の言葉と音楽を形づくっている要素とを線で結んだりして、音楽の特徴と歌詞の内容との関連に気付くよう促す。

- 効果的なグループ活動を行うためのグループ編成等の工夫
 - ・ 同じパートの中で、工夫したい部分が同じ生徒をグループにすることで、意見交流や試行錯誤を活性化する。
- 児童・生徒の意見を引き出し、全体に広げる指導の工夫
 - ・ 各グループが工夫した部分を発表する際、各グループの表現の工夫と音楽を形づくっている要素との関連を整理しながら板書する。

5 題材の指導計画と評価計画（全4時間）

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	➤具体的な指導の工夫	知・技	思	態
第1時	<p>◆曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受感する。</p> <p>○既習事項を振り返るとともに、本題材における学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既習曲を歌い、強弱の工夫について振り返る。 ・ 範唱CDを聴き、曲の印象を学習者用端末に入力して学級全体で共有し、曲想や歌詞の内容などに関心をもつ。 ・ 本題材における学習の進め方を確認する。 <p>○範唱CDを聴いたり各パートの旋律を歌ったりして、知覚したり感受したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ よいと思った部分の楽譜に印を付け、理由を学習者用端末に入力する。 ・ 学習者用端末を活用し、互いの意見を共有する。 ・ よいと思った部分から、表現を工夫したい部分を一箇所選び、どのように工夫するかを考え、学習者用端末の学習カードに入力する。 <p>○本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各パートの旋律を歌い、本時の学習を振り返る。 ・ 本時の学習内容を学習者用端末の学習カードに入力する。 	<p>➤各自が一番工夫したい部分を選ぶことで、根拠をもって思いや意図をもてるよう促す。【個】</p> <p>➤学習者用端末内の学習カードに学習内容を入力して蓄積する。【個】</p>	↓		
第2時	<p>◆知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲想と音楽の構造や歌詞の内容を意識して、どのように歌うかについて、思いや意図をもつ。</p> <p>○前時を振り返り、本時の活動の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者用端末の学習カードで記録を確認し、知覚・感受の関わりについて振り返りながら歌う。 ・ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容を意識することを確認することで、本時の活動の見通しをもつ。 <p>○知覚と感受との関わりについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌詞を朗読したり歌ったりして、言葉のまとまりや歌詞の内容について気が付いたことを学習者用端末に入力する。 <p>○曲と音楽の構造や歌詞の内容とを関わらせて、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人で表現の工夫を考え、学習者用端末に入力する。 <p>○本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各自で表現を工夫しながら旋律を歌って本時の学習を振り返り、本時の学習内容を学習者用端末の学習カードに入力する。 	<p>➤学習者用端末を活用して学習履歴を振り返る。【個】</p> <p>➤音楽を形づくっている要素と歌詞との関連を線で結び、気づきを促す。【協】</p> <p>➤学習者用端末内の学習カードに学習内容を入力して蓄積する。【個】</p>	↓	知 （学習者用端末）	

第 3 時	<p>◆曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解するとともに、友達と協働的に学びながら表現を創意工夫し、思いや意図をもって歌う。</p> <p>○前時を振り返り、本時の見通しをもつ。 ・学習者用端末を活用して、前時に入力した各自の表現の工夫を学級全体で共有する。 ・個人で考えた表現の工夫を基にグループ活動を行うことを確認し、本時の活動の見通しをもつ。</p> <p>○曲想と音楽の構造や歌詞の内容とを関わらせて、どのように歌うかについて、グループで歌唱表現を工夫する。 ・個人で考えた表現の工夫について意見交換する。 ・意見を出し合い、歌い試しながら、グループの表現を一つにまとめる。 ・グループで考えた音楽表現を、言葉や音で学習者用端末に記録する。</p> <p>○各グループの表現の工夫を共有する。 ・中間発表を行い、グループごとに発表し、互いの表現のよさ等について意見交換したり、工夫した部分を学級全体で歌ったりする。</p> <p>○本時の学習を振り返る。 ・中間発表を基にグループごとの表現の工夫を振り返り、改善方法を考える。 ・本時の学習内容を学習者用端末の学習カードに入力する。</p>	<p>➤学習者用端末に記録した録音を活用し、グループの表現の変容を客観的に振り返る。【個】</p> <p>➤同じパートの中で、工夫したい部分が同じ生徒をグループにすることで、意見交流や試行錯誤を活性化する。【協】</p> <p>➤発表の際、各グループの表現の工夫と音楽を形づくっている要素との関連を整理しながら板書する。【協】</p> <p>➤他のグループが工夫した表現を、実際に歌って確かめ、言葉で交流する活動と、音や音楽で試す活動を往還する学習活動を設定する。【個】</p> <p>➤学習者用端末内の学習カードに学習内容を入力して蓄積する。【個】</p>	
第 4 時	<p>◆本題材における学習を生かして、創意工夫しながら曲のよさや特徴が伝わるように混声三部合唱をする。</p> <p>○前時を振り返り、本時の見通しをもつ。 ・学習者用端末を活用して、グループごとに前時に入力した表現の工夫を振り返る。</p> <p>○グループの表現を一層、工夫する。 ・グループで録音を確認し、より効果的な表現となるよう試行錯誤する。</p> <p>○各グループの表現の工夫を共有する。 ・発表を行い、グループごとに発表し、互いの表現のよさ等について意見交換したり、工夫した部分を学級全体で歌ったりする。</p> <p>・同じパート同士のグループ活動では気付かなかった音の重なりについて考える。</p> <p>○創意工夫を生かして、曲のよさや特徴が伝わるように混声三部合唱をする。</p>	<p>➤学習者用端末に記録した録音を活用し、グループの表現の変容を客観的に振り返る。【個】</p> <p>➤発表の際、各グループの表現の工夫と音楽を形づくっている要素との関連を整理しながら板書する。【協】</p> <p>➤他のグループが工夫した表現を、実際に歌って確かめ、言葉で交流する活動と、音や音楽で試す活動を往還する学習活動を設定する。【個】</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ・パートごとに前時までの取り組みを共有したり確認したりしながら学級全体で歌い、録音する。 ・録音を聴き、気付いたことを学級全体で共有しながら歌唱表現を高めていく。 <p>○題材における学習を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの学びを振り返り、今後に生かしたいことを学習者用端末の学習カードに入力する。 ・学級全体で即時的に共有した学習カードを基にペアで意見交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> ➢学習者用端末に記録した録音を活用し、グループの表現の変容を客観的に振り返る。【個】 ➢学習者用端末内の学習カードに学習内容を入力して蓄積する。【個】 	 技 (観察)	思 (観察)	態 (観察)
--	--	---	------------------	------------------

〈実践事例2：小学校第5学年〉

題材名 曲の特徴をとらえて表現を工夫しよう (小学校第5学年)「A表現・器楽」
--

内容のまとめ [第5学年及び第6学年] A表現(2)器楽 及び [共通事項] (1)

1 題材の目標

- (1) 曲想と音色や音の重なりとの関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な器楽の技能を身に付ける。
- (2) 音色や音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。
- (3) 曲の特徴を捉えて表現を工夫する学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組み、器楽合奏を通して音色や音の重なりを親しむ。

2 指導事項との関連

A表現(2)器楽ア、イ(イ)、ウ(ウ) [共通事項] (1)ア、イ
 (本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「音色」、「音の重なり」)

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 曲想と音色や音の重なりとの関わりについて理解している。 技 思いや意図に合った表現をするために必要な器楽の技能を身に付けて演奏している。	思 音色や音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	態 曲の特徴を捉えて表現を工夫する学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。

4 本題材における具体的な指導の工夫

- (1) 個別最適な学びの充実に向けた指導の工夫
 - 児童・生徒一人一人の実態に応じた柔軟な学習課題や学習活動の設定
 - ・ 各自の技能の習得状況に応じて運指やタンギングなどの奏法を確認できるよう、学習者用端末に格納した学習支援のための動画を活用するよう促す。
 - 児童・生徒が既習事項を生かして学習するための指導の工夫
 - ・ 学習者用端末に記録した録音を含む学習履歴を活用し、自分やグループの表現の変容を比較して客観的に振り返る。
 - ・ 音楽を形づくっている要素の働きについて、言葉で交流する活動と、音や音楽で試す活

動を往還する学習活動を設定する。

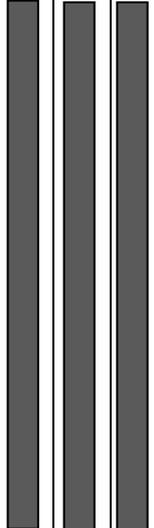
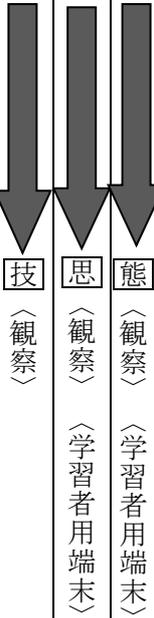
(2) 協働的な学びの充実に向けた指導の工夫

- 児童・生徒が、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるための指導の工夫
 - ・ 知覚したことと感受したこととの関わりについて、児童が焦点化して考えることができるよう、思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を音色と音の重なりにより精選して設定する。
- 効果的なグループ活動を行うためのグループ編成等の工夫
 - ・ 同じパート同士で意見を交流する場を設定し、友達の考えに触れながら、どのように演奏するかについて、考えを広めたり深めたりできるようにする。
 - ・ パートのバランスに配慮しながら、学級を4分割し、合奏グループを編成することで、友達の考えに触れながら、どのように演奏するかについて、考えを広めたり深めたりできるようにする。
- 児童・生徒の意見を引き出し、全体に広げる指導の工夫
 - ・ 児童の意見や各グループの表現の工夫などを、知覚・感受を意識して捉えられるよう整理する。
 - ・ 学習者用端末を活用し、一人一人の考えや表現の工夫を学級全体で即時的に共有することにより、効果的な意見の交流を促す。

5 題材の指導計画と評価計画（全5時間）

次	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	➤具体的な指導の工夫	知・技	思	態
第1次	◆曲想と音色との関わりについて考え、各楽器の特徴を生かして、曲の特徴にふさわしい表現を工夫して演奏する。				
第1時	<p>○既習曲との比較を手掛かりに曲想を感じ取りながら聴いたり、主な旋律を演奏したりして曲の特徴を捉え、本題材における学習の見通しをもつ。</p> <p>・既習曲「こきりこ節」と器楽曲「八木節」を比較しながら聴き、聴き取ったことや感じ取ったこと、気付いたことを学習者用端末に入力する。</p> <p>・聴き取ったことや感じ取ったこと、気付いたことを学級全体で共有する。</p> <p>・主な旋律をリコーダーで演奏する。</p> <p>・本題材における学習の進め方を確認する。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>・本時の学習内容を学習者用端末の学習カードに入力し、本時の学習を振り返る。</p> <p>○前時を振り返り、本時の見通しをもつ。</p> <p>・学習者用端末を活用して、前時に入力した各自の振り返りを学級全体で共有する。</p> <p>・本時から、リコーダー以外の楽器も演奏することを確認し、活動の見通しをもつ。</p>	<p>➤学習者用端末を活用し、一人一人の考えや表現の工夫を学級全体で即時的に共有し、効果的な意見の交流を促す。【協】</p> <p>➤各自の技能の習得状況に応じて運指やタンギングなどの奏法を確認できるよう、学習者用端末に格納した学習支援の動画を活用するよう促す。【個】</p> <p>➤学習者用端末内の学習カードに学習内容を入力して蓄積する。【個】</p> <p>➤学習者用端末を活用して、学習履歴を客観的に振り返る。【個】</p>			

第2時	<p>○曲想と音色との関わりについて考え、各楽器の特徴を生かして、曲の特徴にふさわしい表現を工夫して演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な旋律以外の楽器（箏、グロッケン、打楽器、木琴、バスキーボード）の演奏を聴き、音色について気が付いたことを学級全体で共有する。 ・楽器の分担を決め、担当するパートを演奏する。 ・パートごとに、音色に気を付けて、曲の特徴にあった演奏の仕方を工夫する。 ・担当するパートを演奏する際に工夫したことや工夫したいことを、パートごとに学習者用端末に入力する。 <p>○本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容を学習者用端末の学習カードに入力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ➢知覚・感受を意識して捉えられるよう、児童の意見を整理する。【協】 ➢表現のよさを実感できるよう、音楽を形づくっている要素の働きについて、言葉で交流する活動と、音や音楽で試す活動を往還する学習活動を設定する。【個】 ➢学習者用端末内の学習カードに学習内容を入力して蓄積する。【個】 	知 （学習者用端末）		
第2次 第3時	<p>◆曲想と音色、音の重なりとの関わりについて考え、各楽器の特徴やパートの役割を生かして、曲の特徴にふさわしい表現を工夫して演奏する。</p> <p>○前時を振り返り、本時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者用端末を活用して、パートごとに前時に入力した表現の工夫を振り返り、意見を交わす。 <p>・本時は、工夫を生かして合奏することを確認する。</p> <p>○各楽器の特徴や曲想と音色、音の重なりとの関わりについて考え、表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各パートで工夫した部分を発表し合い、学級全体で共有する。 ・全体で音を重ねて合奏し、録音する。 ・録音を聴き、音の重なりやパートの役割について考え、担当するパートの役割やその変化についてスコアに記述する。 ・再度、全体で合奏し、録音する。 <p>○本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容を学習者用端末の学習カードに入力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ➢学習者用端末を活用して、学習履歴を客観的に振り返る。【個】 ➢同じパートで意見を交流し、友達の考えに触れながら、どのように演奏するかについて、考えを広めたり深めたりできるようにする。【協】 ➢学習者用端末内の学習カードに学習内容を入力して蓄積する。【個】 			
第4時	<p>○前時を振り返り、本時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者用端末を活用して、パートごとに前時に入力した表現の工夫を振り返る。 <p>○音色や音の重なりを気をつけ、互いのパートや全体の響きを聴き合いながら、曲の特徴にふさわしい表現で合奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パートのバランスに配慮して編成された4合奏グループに分かれ、前時のパートごとの工夫を共有する。 ・楽器の特徴やパートの役割を生かして、どのように演奏するか考え、グループごとに合奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ➢学習者用端末を活用して、学習履歴を客観的に振り返る。【個】 ➢パートのバランスに配慮しながら学級を4分割し、合奏グループを編成することで、友達の考えに触れながら、どのよう 			

	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに録音しながら工夫について意見交換し、試行錯誤を繰り返す。 <p>○各グループの表現の工夫を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表を行い、グループごとに発表し、互いの表現のよさ等について意見交換する。 <p>○本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容を学習者用端末の学習カードに入力する。 	<p>に演奏するかについて、考えを広めたり深めたりできるようにする。【協】</p> <p>➤表現のよさを実感できるよう、音楽を形づくっている要素の働きについて、言葉で交流する活動と、音や音楽で試す活動を往還する学習活動を設定する。【個】</p> <p>➤学習者用端末内の学習カードに学習内容を入力して蓄積する。【個】</p>	
第5時	<p>○前時を振り返り、本時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習者用端末を活用して、グループごとに前時に入力した表現の工夫や録音を振り返る。 本時は、各グループの工夫を全体で演奏し、より表現を高めることを確認する。 <p>○各グループの表現の工夫を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループごとに工夫した部分を学級全体で合奏して共有し、録音する。 録音を聴き、気付いたことを学級全体で共有しながら器楽表現を高めていく。 <p>○題材における学習を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> 自らの学びを振り返り、今後に生かしたいことを学習者用端末の学習カードに入力する。 学級全体で即時的に共有した学習カードを基にペアで意見交換する。 	<p>➤学習者用端末を活用して、録音を含む学習履歴を客観的に振り返る。【個】</p> <p>➤表現のよさを実感できるよう、音楽を形づくっている要素の働きについて、言葉で交流する活動と、音や音楽で試す活動を往還する学習活動を設定する。【個】</p> <p>➤学習者用端末内の学習カードに学習内容を入力して蓄積する。【個】</p>	

〈実践事例3：小学校第2学年〉

<p>題材名</p> <p>だんぎの音色やリズムを楽しもう (小学校第2学年)「A表現・器楽」 「B鑑賞」</p>	<p>内容のまとめ</p> <p>〔第1学年及び第2学年〕 A表現(2)器楽 及び〔共通事項〕(1) B(1)鑑賞 及び〔共通事項〕(1)</p>
--	--

1 題材の目標

- (1) 曲想と音色やリズムとの関わりについて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、音色やリズムに気を付けて打楽器を演奏する技能を身に付ける。
- (2) 音色やリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、打楽器でどのように演奏するかについて思いをもったり、曲の楽しさを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりできるようにする。
- (3) 打楽器の音色やリズムに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に器楽や鑑賞の学習活動に取り組み、様々な打楽器の音色やリズムに親しむ。

2 指導事項との関連

A表現(2)器楽 ア、イ(イ)、ウ(イ) B鑑賞(1)ア、イ [共通事項] (1)ア
 (本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素:「音色」、「リズム」)

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 曲想と打楽器の音色やリズムとの関わりについて気付いている。(器楽、鑑賞)</p> <p>技 思いに合った表現をするために必要な、音色やリズムなどの特徴に気を付けて打楽器を演奏する技能を身に付けている。(器楽)</p>	<p>思 ① 音色やリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の楽しさを見だし、曲全体を味わって聴いている。(鑑賞)</p> <p>思 ② 打楽器の音色やリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、打楽器でどのように演奏するかについて思いをもっている。(器楽)</p>	<p>態 打楽器の音色やリズムに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に器楽や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(器楽、鑑賞)</p>

4 本題材における具体的な指導の工夫

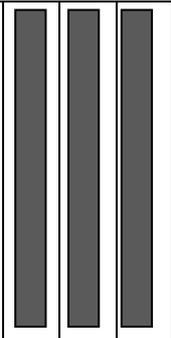
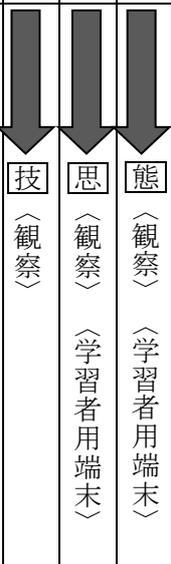
(1) 個別最適な学びの充実に向けた指導の工夫

- 児童・生徒一人一人の実態に応じた柔軟な学習課題や学習活動の設定
 - ・ 児童が自分のペースで聴き直しができるように、学習者用端末を活用する。
- 児童・生徒が既習事項を生かして学習するための指導の工夫
 - ・ 本題材における学習の過程を示した振り返りカードを学習者用端末に格納し、音色とリズムに焦点化した振り返りを促す。

(2) 協働的な学びの充実に向けた指導の工夫

- 児童・生徒が、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるための指導の工夫・児童の発言を板書する際は、聴き取ったことと感じ取ったことを線で結び、関連付けながら整理する。
 - ・ 音を出しながら表現の工夫を紹介し合い、音色やリズムを根拠とした対話ができるよう促す。
- 効果的なグループ活動を行うためのグループ編成等の工夫
 - ・ 前時に提出したカードを基に、異なる楽器を選んで3人がグループになるよう調整し、児童が自己の考えを広げられる機会を設ける。
- 児童・生徒の意見を引き出し、全体に広げる指導の工夫
 - ・ 歌詞に合った音色になるよう理由を考えながら工夫しているグループを指名し中間発表を行う際、使用した楽器や演奏の仕方に注意して聴くよう促し、気付いたことを全体で共有できる場面を設ける。

第2次	<p>◆「森のたんけんたい」の音色やリズムが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、歌詞に合った楽器の音色を工夫して演奏する。</p>				
第3時	<p>○前時を振り返り、本時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者用端末を活用して、「ゆかいな時計」の学習を振り返る。 ・本時は、「ゆかいな時計」の学習を生かして、新たな曲を歌ったり演奏したりすることを確認する。 <p>○「森のたんけんたい」を歌い、リズムの面白さを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「森のたんけんたい」を歌ったり、手でリズムを打ったりする。 ・「コンコンコン」「ポンポンポン」「キララ」の歌詞に合う音色の楽器を探す。 ・自由に試しながら、3種類の歌詞に合う音色の楽器を音楽室の楽器から探す。 ・学習者用端末で、選んだ楽器の写真を撮影する。また、楽器を鳴らした様子を動画で記録する。 ・楽器を選んだ理由を学級全体で紹介し合う。 <p>○本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者用端末の振り返りカードを用い、本時の学習活動や学習内容を学級全体で確認する。 ・本時の学習内容を学習者用端末の学習カードに入力する。 	<p>➤板書の際は、知覚と感受を線で結び、関連付けながら整理する。【協】</p> <p>➤本題材の学習過程を示した振り返りカードを学習者用端末に格納し、音色とリズムに焦点化した振り返りを促す。【個】</p>			
第4時	<p>○前時を振り返り、本時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者用端末を活用して、自分が選んだ楽器を振り返る。 <p>・本時は、グループで楽器を選び、音の出し方を工夫することを確認する。</p> <p>○歌詞に合った音色で、リズムにのりながら演奏するために工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に各自が選んだ楽器をグループのメンバーに紹介し合い、歌詞に合った演奏のために、どの楽器を選ぶか相談する。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループで演奏する楽器を選ぶ。 ・グループで選んだ楽器で、リズムにのりながら歌詞に合った音色になるよう、互いに音を聴き合って演奏方法を試行錯誤する。 ・中間発表を行い、学習者用端末に動画で記録する。 	<p>➤前時の学習記録を基に、異なる楽器を選んでいる3人がグループになるよう調整し、児童が自己の考えを広げられる機会を設ける。【協】</p> <p>➤音を出しながら表現の工夫を紹介し合い、音色やリズムを根拠とした対話ができるよう促す。【協】</p> <p>➤歌詞に合った音色になるよう理由を考えながら工夫しているグループを指名し中間発表を行う際、使用した楽器や演奏の仕方に注意して聴くよう促し、気付いたことを全体で共有できる場面を設ける。【協】</p>			

	<ul style="list-style-type: none"> 発表を聴いて気付いたことを学級全体で共有する。 ○本時の学習を振り返る。 ・学習者用端末の振り返りカードを用い、本時の学習活動や学習内容を学級全体で確認する。 ・本時の学習内容を学習者用端末の学習カードに入力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤板書の際は、知覚と感受を線で結び、関連付けながら整理する。【協】 ➤本題材の学習過程を示した振り返りカードを学習者用端末に格納し、音色とリズムに焦点化した振り返りを促す。【個】 	
第5時	<ul style="list-style-type: none"> ○前時を振り返り、本時の見通しをもつ。 ・学習者用端末を活用して、グループの表現の工夫や中間発表の様子を振り返る。 ・本時は、各グループの工夫を全体で共有し、より表現を高めることを確認する。 ○中間発表を生かして、表現をさらに工夫する。 ・中間発表の際に学級全体で共有した内容を踏まえ、再度、演奏方法等を試行錯誤する。 ○各グループの工夫を共有する。 ・グループごとに発表し合う。 ・音色とリズムにポイントを絞って聴く。 ○題材における学習を振り返る ・本時の学習内容を学習者用端末の学習カードに入力する。 ・学習者用端末の振り返りカードを用い、本題材の学習内容を学級全体で確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤本題材の学習過程を示した振り返りカードを学習者用端末に格納し、音色とリズムに焦点化した振り返りを促す。【個】 	

V 研究の成果と課題

1 研究の成果

(1) 個別最適な学びの充実に向けた指導の工夫

- ・ 児童・生徒が各自のペースやタイミングで範唱や範奏等の音源や動画などを確認できる環境を整えたことで、児童・生徒一人一人が自身の課題意識を基に、繰り返し演奏方法等を確かめることができ、学習意欲が高まるなど、より主体的に学ぶ姿が見られた。
- ・ 児童・生徒が、自身が最も取り組みたい部分を選んで学習を進めたり、ふさわしいと考える楽器を選択して学んだりするなど、知覚・感受の状況や、担当する演奏部分などに合わせ、児童・生徒が実態に応じて選択できる活動や課題等を設定したことで、児童・生徒が自らの関心・意欲を生かして主体的に学ぶ姿が見られた。
- ・ 学習者用端末を活用し、毎時間の成果や創意工夫の過程で児童・生徒が気付いたことや考えたことなどを振り返り、記録するとともに、演奏等の録音・録画も記録しておくことで、自己の知覚・感受や演奏の工夫等を客観的に捉えることができた。そのことが、次時の目標を考えることにつながり、既習事項を新たな学びに生かしながら、主体的に学習に取り組む姿が見られた。

(2) 協働的な学びの充実に向けた指導の工夫

- ・ 児童・生徒の思いや意見を、教員が学習履歴から事前に把握し、学習のねらいに応じて、同じ考えをもつ児童・生徒でグループを編成したり、異なる考えをもつ児童・生徒でグループを編成したりすることで、話し合いを活性化し、考えを広げたり深めたりすることができた。曲に対する思いや意図を演奏で表せているか、試行錯誤しながら、よりよい音楽表

現の方法を見付けようとしている姿があった。

(3) 調査研究を踏まえた事後調査結果

- ・ 調査研究における各設問への肯定的な回答の割合が、次のとおり検証授業後に上昇し、コミュニケーションが充実したことが分かった。
 - 「歌ったり楽器を演奏したり音楽をつくったりするときに、自分はこう表したいという思いや考えをもつようになっていますか。」
【検証授業前】 83.8% ➡ 【検証授業後】 95.9% (12.1ポイント増加)
 - 「音楽の学習の中で、音楽に対する自分の思いや考えを、先生や友達に言葉などで伝えていきますか。」
【検証授業前】 73.6% ➡ 【検証授業後】 91.7% (18.1ポイント増加)
 - 「音楽の学習の中で、音楽に対する自分の思いや考えを先生や友達に言葉などで伝える際、理由や根拠も伝えていきますか。」
【検証授業前】 67.9% ➡ 【検証授業後】 91.7% (23.8ポイント増加)

2 研究の課題

(1) 個別最適な学びの充実に向けた指導の工夫

- ・ 本研究では、児童・生徒が各自の実態に応じて選択できる課題や活動等を設定することで、個別最適な学びの充実を目指した。しかし、例えば、音楽室内にある全ての楽器から歌詞に合った音色を探す際、類似した音色の楽器が多く、戸惑う児童が一定数いた。何を根拠に選択するかを明確に示すことや、選択が困難な児童・生徒に対しては、しぼった選択肢を教師があらかじめ用意し、その中から選ぶよう促すなどの手だてを準備しておくことが必要である。
- ・ 児童・生徒が既習事項を生かして学習できるための指導の工夫を講じるに当たり、まずは、教師が、児童・生徒の既習事項の学習状況や学びの積み重ねを意識して、学習指導を構想することが重要である。そのためには、学習者用端末に蓄積した児童・生徒の学習記録を活用することが重要であることが改めて分かった。

(2) 協働的な学びの充実に向けた指導の工夫

- ・ 本研究では、児童・生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を、ねらいに即して精選・明確化して学習指導を構想した。その際の精選の視点は、児童・生徒の既習事項への理解の状況である。今後は、このような視点を生かし、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を一層図る必要がある。
- ・ 学習活動において、言葉で交流する活動と、音や音楽で試す活動を往還する際、一つの考えで満足してしまい、往還に至らない児童・生徒が一部に見られた。そのような場合に備え、あらかじめ、何を軸として試行錯誤するかを示すことが必要であることが分かった。
- ・ 音や音楽で試行錯誤する際、本研究では、音楽室内で距離を離して各グループの歌唱や器楽の演奏を行った。しかし、一つの部屋で実施した場合、他のグループの声や音が混ざってしまい、自分のグループの音が聴き取りづらい状況が生じた。複数の教室の活用など、音や音楽で試行錯誤するグループ活動の実施方法について、あらかじめ検討しておく必要がある。

令和6年度 教育研究員名簿

小・中合同 音楽

学 校 名	職 名	氏 名
中 央 区 立 明 石 小 学 校	主 任 教 諭	深 田 泰 子
中 央 区 立 久 松 小 学 校	主 幹 教 諭	◎北 村 桃 子
墨 田 区 立 言 問 小 学 校	主 任 教 諭	杉 浦 あ ず さ
品 川 区 立 中 延 小 学 校	主 任 教 諭	川 上 晃 子
荒 川 区 立 尾 久 第 六 小 学 校	主 任 教 諭	野 田 尚 美
葛 飾 区 立 清 和 小 学 校	主 任 教 諭	永 見 早 枝 花
西 東 京 市 立 本 町 小 学 校	主 任 教 諭	吉 野 修 平
葛 飾 区 立 小 松 中 学 校	主 任 教 諭	関 口 裕 大
小 笠 原 村 立 母 島 中 学 校	主 任 教 諭	宮 本 香 織

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課

指導主事 清水 裕子

令和6年度
教育研究員研究報告書
小・中合同・音楽

令和7年3月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849